



ガーナー森とシーサーのお話

ムイ

ガーナー森と

シーサーのお話

これは遠い昔、私たちの沖縄が
「琉球」と呼ばれていた頃のお話



それはそれは大きな

「ガーナー」と呼ばれる魔物がいてね。

豊見城に住む村人達を

困らせていたんだって。



「ガーナー」は漫湖と言う
大きな大きな水辺に住んでいてね。

「真玉橋くわーくわ(喰おう喰おう)

嘉数くわーくわ(喰おう喰おう)

根差部くわーくわ(喰おう喰おう)」

と何度も村々を襲いに來ていたんだ。

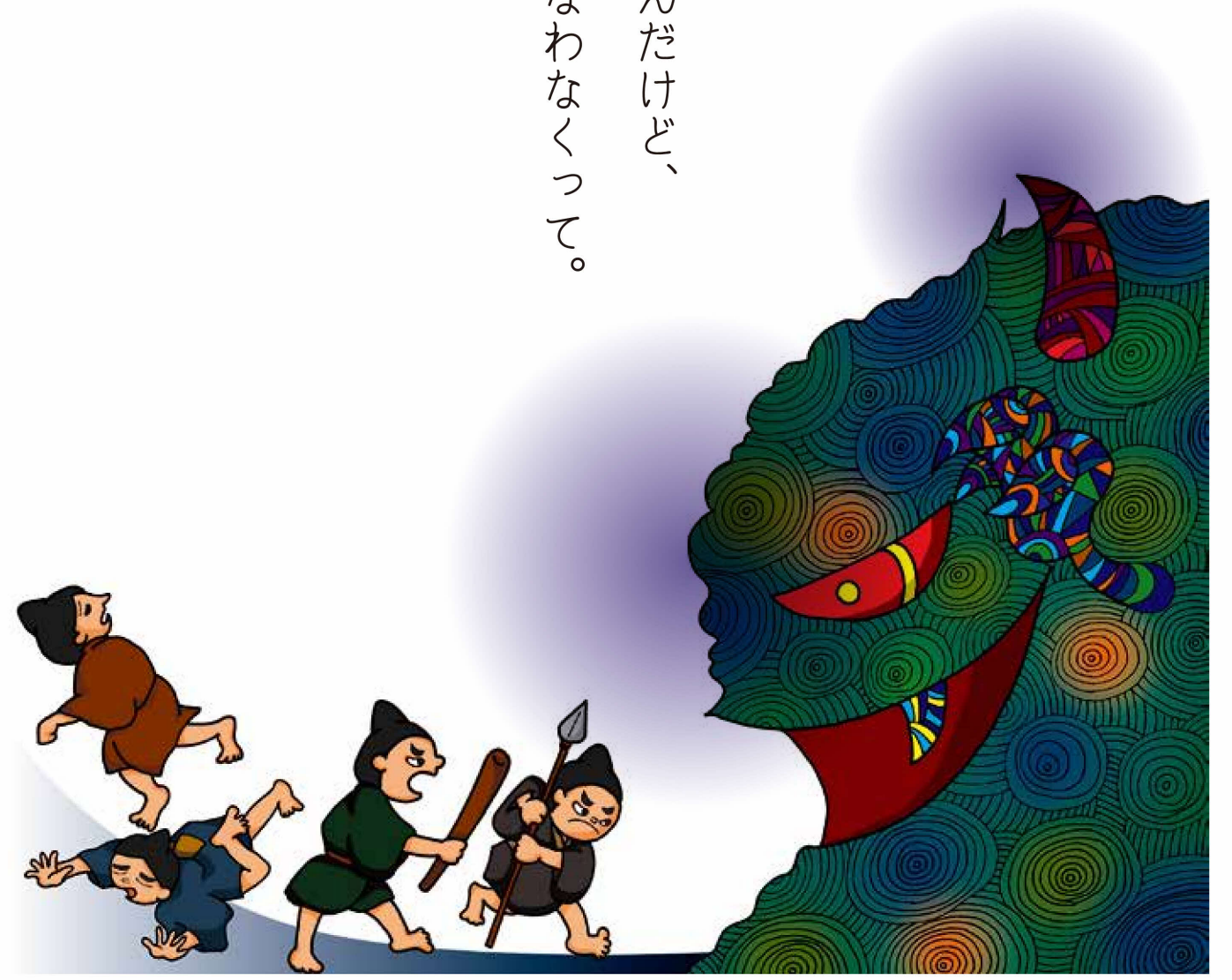


むらびとたち じぶんたち むら まも
村人達は自分達の村を守ろうと

ひっし
必死に「ガーナー」に立ち向かったんだけど、

きよだい
やっぱり巨大な「ガーナー」にはかなわなくて、

まいにちこわ おも
毎日怖い思いをしていたんだ。



ひ
ある日、「ガーナー」に襲われている

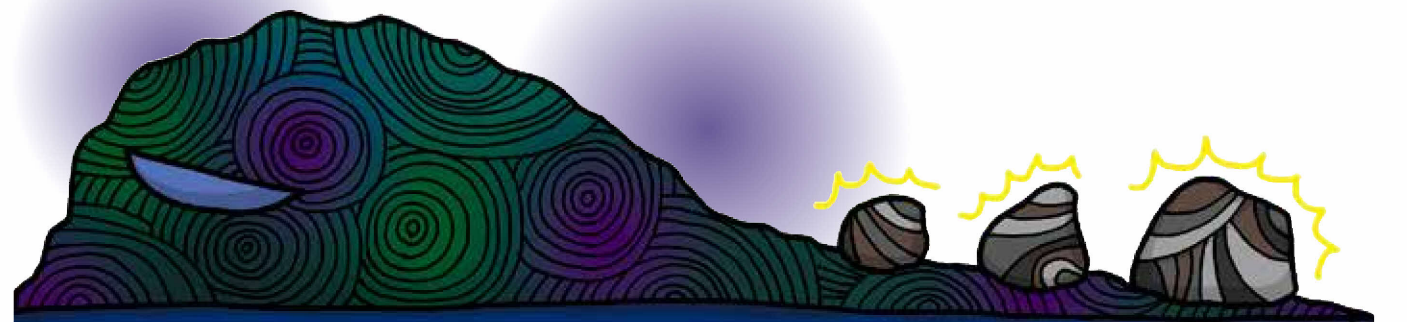
むら み かみさま
村を見た神様が

むらびとたち おも
村人達をかわいそうに思っ

てん
天から「ガーナー」に向かって石を落としましたんだ。



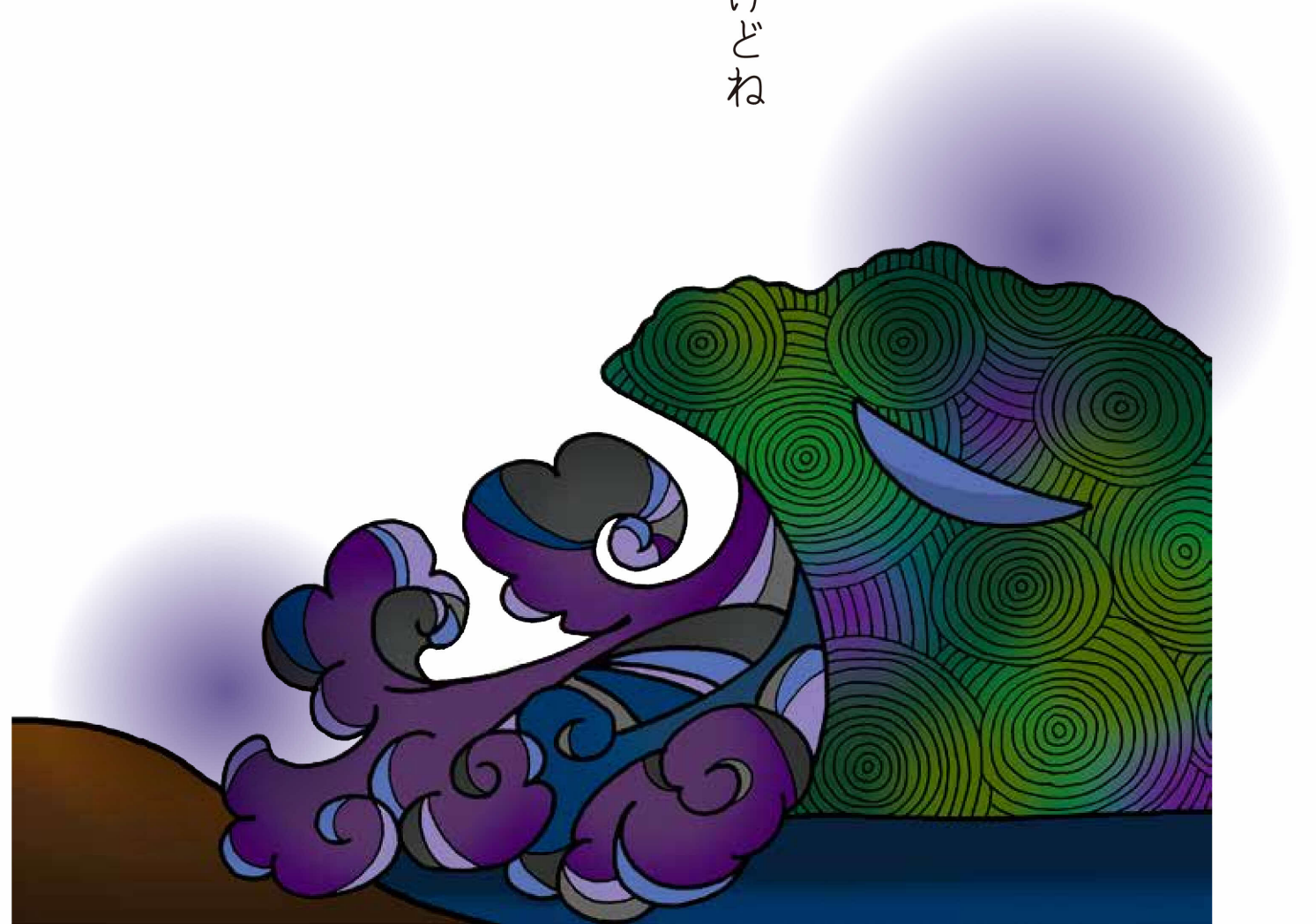
だけど、「ガーナー」はとても大きいから
1つ目の石では止めることができなくて。
2つ目の石でも止めることができなくて。
3つ目の石がようやくしっぽにあたって
やっとで「ガーナー」の動きを止めることができたんだ。



動けなくなった「ガーナー」は
もだえ苦しんだ末に
大きな口を空けたまま絶命し、
小さな森になったんだ。
その森を「ガーナー森（ムイ）」と呼んだんだよ。



やっと動けなくなった「ガーナー」だけどね
今度は、開けたままの大きな口から
毒の煙を吐き出し
また村人達を苦しめはじめたんだ。



困った村人達は
どうしたら「ガーナー」の
吐き出す毒の煙から逃れて
平和な暮らしができるか考えたんだ。



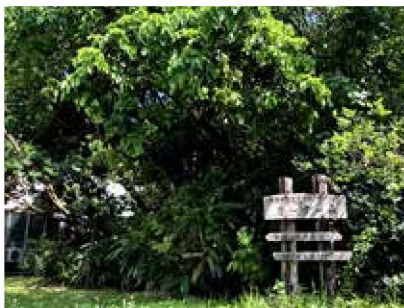
そこで真玉橋、嘉数、根差部の村人達は
「これ以上「ガーナー」の吐き出す毒に
怯えることなく平穩に過ごせますように」
と祈りを込めてシーサーを作り、
「ガーナー森」のある方向に
向けて置いたんだ。



そしたらね、村人達が祀った
シーサーが「ガーナー」を睨みはじめたんだ。
それからというものの「ガーナー」は
毒を吐き出すことはなくなり、
村には平穩な日々がやってきたんだよ。



● 行ってみよう① ガーナー森



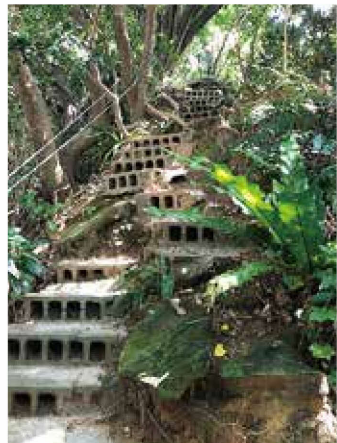
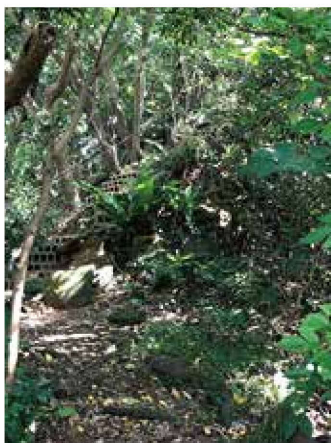
◎ ガーナー森

小祿から与儀向けに、那覇大橋手前右手にある能登の海の建物裏手にあり、駐車場を一番奥まで進むと左手に「那覇指定文化財ガーナー森」の看板がるヨ！

看板の左側に小さな道があって上まで登れるようになっているヨ。だけど整備されている道ではなく手すりも簡単なロープだけで、とっても危ないので

決して子どもだけで行っちゃいけないヨ！

もし、上まで行くときは大人の人と一緒に登るんだヨ！



※足元がとても悪いんだ！
ヒールやサンダルで登ると危ないヨ（経験談・笑）

上まで（・・・すぐ着きます・笑）行くとガーナー森の石碑がありました。
そして、丘の上からの眺めはと言うと…残念ながら木々が生い茂っていてほぼ何も見えませんでした!!

「ガーナー森」のある方向を睨んでいる
真玉橋の「イリノ（西の「シーサー」と
根差部の「シーサー」は
今でも残っているんだ。
そして、みんなを
悪いことから守ってくれているんだよ。
今度一緒に見に行こうね。





● 行ってみよう② 守り神シーサー

◎ イリノシーサー

真玉橋交差点角にある「とよみビル」の裏手にあり、今も変わらずガーナー森のある西の方向を見て睨みを利かせているんだヨ！



◎ 根差部のシーサー

根差部から見るとガーナー森は北西の方角にあるんだ！今でも根差部の集落内に祀られたシーサーは北西の方角を睨みながら地域を見守る守り神として地域の人たちに大事にされているヨ！



● 島であった頃のかつてのガーナー森の姿

写真は埋め立てられる前のガーナー森です。ほら、絵本の6ページの「神様が天から石を落としてガーナーの動きを止めた」絵にそっくりでしょ♪



[写真提供：上原正徳氏／協力：たからネット 高良広輝氏]

ガーナー森とシーサーのお話

あとがき

地元の歴史・文化広め隊代表 新 田 宗 市

この絵本は、

①豊見城市内の子ども達に豊見城に伝わる昔話を伝え残したい！

②この本をきっかけとして豊見城の歴史や文化に興味を持ってほしい！

という私たちの思いを伝えていくために制作いたしました。勢いだけで絵本の企画を立ち上げたため、製作には非常に大変な思いをしました。とくに絵の担当者は何度もリテイクを重ねながらの制作で、後半はスケジュールとの闘いでしたね。

しかし、苦労しただけに、なかなかの出来に仕上がったのではないでしょうか。楽しんでいただけましたか？

この絵本を読んでもくれた「あなた」に、地元で伝わる文化や歴史に興味を持ってもらえたら、とっても嬉しいな♪って思います。

資料収集にあたって、**豊見城市教育委員会文化課**の皆様にご世話になりました。制作にあたっては、『市民団体活動支援補助金』を活用し、**豊見城市役所・協働のまち推進課**の皆様よりご支援いただきました。

また、本文監修と相談には**豊見城市教育委員会文化課の島袋幸司さん**にご協力いただきました。本当にありがとうございます。

「**ガーナー森とシーサーのお話**」は、沖縄県豊見城市に伝わるお話です。この物語は、おそらく今回はじめて本の形になるのではないかな、と思います。

実は、このお話は文献に残っているお話ではなく、人々が語り継いできた物語で、難しい言葉で言うと「**口承文芸**」の一つだからです。

沖縄にはこういった「語り継いできた物語」がかなりあって、豊見城に伝わっているものだけでもかなりの数があるんです。

しかし、こういった**口承文芸**は話してくれる人がいなくなってしまうと、もうなくなってしまうって誰もわからなくなってしまうです。

昔から語り継がれる物語がなくなってしまうように、素晴らしい文化が失われぬように、そして、この絵本を読んだあなたが、地元の文化や歴史を大切に思えるように。この絵本がその一助となれば幸いです。

ガーナー森(ムイ)と

シーサーのお話

企画・地元の歴史・文化広め隊

(豊見城市商工会青年部有志の会)

代表

新 田 宗 市
兼 島 正 美
與 那 城 瑛 太
赤 嶺 太 志
上 地 政 明
比 嘉 宣 仁

協力・豊見城市役所

豊見城市教育委員会文化課

上原正徳氏 (写真提供)

たからネット

高良広輝氏 (写真提供協力)

制 作

文を書いた人 新 田 宗 市
絵を描いた人 兼 島 正 美

発行日・二〇一九年三月三日

発行所・豊見城市商工会青年部

〒九〇一〇二四二

沖縄県豊見城市字高安三五八一二

☎〇九八―八五〇―二〇六〇

FAX 〇九八―八五〇―〇四六二

印刷所・いろは総合印刷

〒九〇一〇二二一

沖縄県豊見城市字饒波一四〇一五

☎〇九八―八五〇―一五五四二

FAX 〇九八―八五〇―〇七六八

本書の無断転写、転載、複製を禁じます

*このお話は、史実を軸に創作されたフィクションです